

大井上水道企業団全員協議会

平成30年7月6日
午後13時00分

○職員 定刻前につき、録音及び概要の公表の説明。

○議長（清水唯史君） 開会の宣告及び開会挨拶。

○局長 局長挨拶。

○議長（清水唯史君） 今回の全員協議会開催につき、本題の説明を職員へ求めた。

○職員 配布資料「大井上水道企業団全員協議会で議論していただくこと」により、大井上水道企業団の経緯、現況、水道事業を取り巻く環境等の説明のうえ、水道料金のあり方について審議頂きたいことを説明。説明の詳細については、

1. 水道料金設定の考え方について

①公営企業の原則の説明（独立採算、受益者負担、経済性公共性の追求及び公共の福祉の増進）

②施設更新、耐震化を計画的に推進し持続可能な水道としていく必要があり、受益者負担のあり方について検討が必要な時期であること。

③安心・安全な水道サービス持続のために、計画的な投資は必要であり、老朽化対策、企業債抑制の検討、安定経営のための資金確保、経費削減の継続、事業の見直し等を公営企業の原則に基づき検討が必要。

2. 現行料金体系等について

①水道事業の料金体系（一部料金制、二部料金制等）について説明。

基本料金（用途別、口径別）、水量料金（単一従量制、逦増制）について説明。

料金体系の県内現況、県内各事業体毎の使用水量に応じた料金一覧を提示し、

県内水道料金比較表（全国最高、全国最低を含む）にて詳細に説明。

をおこない、

①水道料金見直しの是非について。

②料金体系の種別の選択について。

③水道料金改定率について。

④水道料金改定の時期について、検討を頂きたい事を説明。

○議長（清水唯史君） 引き続き、投資計画、財政計画の説明を求めた。

○職員 配布資料「投資計画・財政計画概略説明資料」に基づき、説明。説明の詳細については、

1. アセットマネジメント手法による更新計画の概略説明（議会にて説明済み）

- ①全保有資産（取得原価66億円）の内訳について。
- ②全資産のデータ化について。
- ③更新時期の設定及び更新費用の見積もり、につき、

将来（H29年度から30年間）必要となる更新費用予測より、説明をおこなった。

2. 財政計画の概略説明（議会にて説明済み）

- ①給水人口予測による、将来の給水収益予測説明。
- ②更新費用以外の費用予測の説明、につき、

将来（H29年度から30年間）の収支について説明をおこなった。

3. 更新計画、財政計画をまとめ

- ①資金残高の推移、損益の推移、更新費用の推移説明

グラフ提示につき、説明をおこなった。

4. 水道料金の適正化について具体的な審議内容について説明

- ①起債の活用について（過去企業債借入の経緯、状況、近隣市との比較等）
- ②料金改定時期、改定率の判断をする基準について。
- ③上記に基づく、シミュレーション（グラフ提示）について。

説明をおこなった。

○議長（清水唯史君） 議長により、質疑応答へ

質疑応答は別紙「質疑応答取りまとめ表」に記載

○議長（清水唯史君） 質疑の結果、水道料金改定の是非については、次回持ち越しとする。事務局としては、料金体系を用途別から口径別に変更したいとのことであるが、水道料金体系の根幹となる事項のため、料金改定率8%～15%の用途別料金の場合、口径別料金の場合、どのようになるのか説明を受けたうえで、改定の是非や、料金体系について審議をおこなっていくこととする。
継続審議で宜しいか？

（議員一同「異議なし」）

○議長（清水唯史君） これまでのことを事務局へ指示し、閉会とする。
御苦労さまでした。

午後 2 時 57 分閉会

— 全員協議会の様子 —



● 企業団施設の視察

水源地、配水池、管路視察（午後 3 時 1 0 分から午後 4 時 4 5 分）

大井上水道企業団全員協議会（H30. 7. 6）

番号	質疑・回答内容	
1	質疑	人口予測について、減少率を甘くみているのでは？ 経営としてあまり甘い予測よりは、無難な数値を採用した方が良いのではないか？
	回答	内部でも予測最大を取るべきか予測最少を取るかあった。 工場や店舗等の使用もあり、人口の多寡によらないものもあると判断をし、最終的には給水収益に補正率を使用している。 また投資計画策定においても30年先は不確定なものがあるため、投資と人口減少の兼ね合いから予測をしている背景がある。
2	質疑	水源地、配水池等の施設統廃合による経費抑制や効率化は考えているのか？
	回答	重要な拠点となる主要な配水池は統合できないが、小さな配水池がいくつもあるため、そのような物は必要に応じて建て替えではない方法（配水池→減圧弁の設置等）を考えている。それにより経費削減が可能と想定している。
3	質疑	牧之原市においても人口減少があるが、高台開発などのプラス要因があると思う。 そういった背景も加味しながら補正率が入っているのか？
	回答	期待はあるが、補正率には入れていない。 どのような施設ができるのか不明のため、どれほど水を使用するのか想定もできない状態であるため。 結果として、収益増につながった場合は、もし次の料金改定があれば、その期間が延びるなどへ反映されていくと考えている。
4	質疑	アセットマネジメントにおいて、全資産の更新時期を設定していく。耐用年数ではなく、使用実績により設定する。と言った説明があったが、実際に耐用年数に達していないが先に更新するようなもの、またその逆はあるのか？
	回答	ある。法定では15年の年数のものが実際には3～5年しか持たず更新するもの（水中ポンプなど）がある。 水道管でも鋳鉄管のようなものは想定している実使用年数より長く持っているものがある。

番号	質疑・回答内容	
5	質疑	<p>施設更新計画のグラフにおいて、H29～H35までの投資額が、H36～H38まで減っているがなぜか？ 過去の投資時期と次回更新時期がちょうど多額な時期、ある程度小額なときにあつたということもあるか？</p>
	回答	<p>更新基準の算出方法は、様々な条件設定がされている。また職員のノウハウに基づいて判断をしている。 なるべく明確に更新箇所を位置づけしているが、直近の5年以降の5年間は、5年総額〇〇円と総額を基準として算出している。お察しのとおり更新時期・更新金額の多寡の影響はある。</p>
6	質疑	<p>資産の77%水道管について 早急に更新しなくてはいけない水道管はあるのか？それとも少し置いておいても良いものなのか？ そこらを含めて緊迫したものならば改定率が〇〇パーセント、そうばかりではないなら〇〇パーセントと決めなくてはいけない。</p>
	回答	<p>ある。ビニル管については当初想定するより早い時期で漏水している。そういったものや、既にアセットによる更新時期を超えた管路もある。</p>
7	質疑	<p>将来的に料金改定をおこなった場合、シミュレーションをした改定率が必ず想定通りに得られるのか？ 島田市は平成27年度から4年間値上げ改定をしているが、分析はできているか？ また、水使用者が節水をしたことにより、給水収益が減少し料金値上げに繋がったということでは理解が難しい。 理解が得られる根拠と説明を。</p>
	回答	<p>必ずしも改定率通りになることは難しいと考えている。しかし改定率による増加分を基準として考えなくてはならない。そういった事を踏まえたうえで、現状使用量の分析をおこない、なるべく想定に近い形であればと思う。 理解の得られる説明等について承知した。</p>
8	要望	<p>構成市との比較を次回も提示して欲しい</p>
	回答	<p>承知した。</p>